

令和 8 年 1 月 10 日

門信徒 各位

潮見寺門信徒会 会長 平国寛己

春の彼岸法要ご案内

大寒の候、皆様いかがお過ごしでしょうか。

浄土真宗では、聞法を第一とします。み教えを聞くということが最も大切とされ、聞法の道場としての本堂があります。是非、お聴聞の座にお誘いあわせの上、お参りください。

どこにいても阿弥陀様に照らされ、よびかけられ、支えられているという「おかげさま」をいただき、報謝の念仏を門信徒の皆さんとともに、よろこびたいものです。

尚、感染症対策として、参拝の際はマスク・手指消毒を推奨します。宜しくお願ひ致します。

記

1.と き	令和 8 年 3 月 21 日（土）午後 1 時から
2.おつとめ	仏説阿弥陀經
3.ご講師	北畠 護 先生（鹿児島別院 伊敷出張所 所長）

-
- ◆ “月のことば”を配布します。
 - ◆ 法要前の掃除・準備を法要当日 3 月 21 日 8 時より行います。お手伝い頂ける方はよろしくお願ひします。お聴聞させて頂くみんなでご法要を作りましょう。
 - ◆ 世話人（布令人）の方、この一年布令ごとなどご苦労さまでした。5 月予定の門信徒会の総会まで、現世話人の任期ですのでよろしくお願ひします。
尚、次年度の世話人の人選方を各班ともよろしくお願ひします。
 - ◆ 門信徒会費 令和 7 年度分未納者の方は、3 月中に納金をよろしくお願ひします。

予告：4 月は会計整理、監査、役員会、門信徒総会の月ですが、現時点での予定立案できていません。決まり次第、関係者にご連絡、ご依頼申し上げます。その折には、よろしくお願ひいたします。

伝道　自然法爾田久保園子

園子は太平洋戦争の始まった年 佐賀県の浄土真宗の寺に生まれました。

そして戦争が終わって五年目 小学校三年生の夏休みの直前に
臨海学校のための検診で肺に影が見つかりました。

その日から 寺の離れの小部屋の籐のベッドの上で
ただただ天井を眺めるだけの毎日が始まりました。

あの頃……

身も心も熱いフライパンの上で焼かれるような 不安と恐怖の日々。

当時は、肺結核で多くの人が死んで行く時代でした。
半年を過ぎる頃には「このまま死ぬ、自分がなくなってしまう」
という恐怖心にとりつかれていきました。
九歳の時の「死」のイメージは、近くの城跡にあった古井戸に
どこまでも落ちていくというもので
そのような夢を何度もみる怖さでした。

悲鳴をあげて目を覚ますと両親がいました。
母が汗と涙をふいてパジャマをとりかえてくれながら
背中をさすってくれました。
父がそばに座って黙って私の話をきいてくれました。
そして父が言いました。

園子、「いのち」は死んでもけっしてなくならないんだよ。

ただ新しく生まれかわるだけなんだ。

園子、いいかい？
光輝く大空に、青や黄色、赤や白の風船があるとしよう。
青い風船はお父さん、黄色はお母さん、白はお姉さん、そして赤いのは園子、お前だよ。

今は風船には空気がいっぱい入ってパンパンに膨らんでいるけど
いつかはしほんでしまうし パーンッと破裂してしまうかもしれない。
ほら見てごらん。 この青い風船をちょっと割ってみるよ。

園子はパンツと割れました。

園子、風船が割れたでしょう？

でも、中に入ってる空気はどこにいったのかな？

そう、空気は外に出たよね。

そして外の空気と一緒にになったでしょう。

風船の中の空気はなくなってしまったんじゃない。

外の空気と一緒にになっただけなんだよ。

「いのち」も同じなんだよ。

からだがなくなっても形が変わるだけで

中の「いのち」は外の「いのち」に合流するだけ。

仏さまの「大きないのち」と一緒になるだけなんだよ。



園子、仏さまの「大きないのち」と一緒にになった「いのち」は

また新しい「いのち」を創るはたらきになるんだよ。

だから、死んでも「いのち」はなくなるないんだ。

たとえ赤い風船が割れても

「いのち」は「大きないのち」に包まれて

いつもみんなと一緒にあるんだよ。

それをきいて園子の死のイメージが、ガラリと変わりました。

人はだれしも死んだら終わりではない。

からだが無くなても、新しい「いのち」のはたらきとなって
二度と死ぬことはないということを知ったからです。

そして、今も「大きないのち」に包まれている！

「あー、よかった」と 安心感でいっぱいになりました。

目の前が明るくなって
こころが大空いっぱいに
広々と開かれていくようでした。

